

唐津の祭り①唐津くんち（1/2）

～くんちの歴史～

■唐津くんちの歴史

唐津くんちは一般的には唐津神社の秋季例大祭を指します。「くんち」は「くにち」が転化したもので「供日」「九日」と書きます。現在では11月3日を中心に前後の日程で執行されていますが、昭和42年以前は旧暦の9月にあたる10月29日、30日に開催していました。

「漆の一閑張り」という手の込んだ技法で制作された巨大な「曳山」（「ひきやま」または「ヤマ」と読ませる）が、笛・太鼓・鉦（かね）の囃子にあわせた曳子（ひきこ）たちの「エンヤ、エンヤ」「ヨイサ、ヨイサ」の掛け声とともに、旧城下町を練り歩きます。ちなみに「ヨイサ」の掛け声は4番曳山及び14番曳山のみ使われます。

昭和33年（1958年）に曳山14台が佐賀県の重要有形民俗文化財に、さらに昭和55年（1980年）には「唐津くんちの曳山行事」が国の重要無形民俗文化財に指定されました。

神幸は江戸時代前期の寛文年間（1661～1672年）に始まるとされますが、確実な記録は宝暦13年（1763年）、土井・水野両藩における引継文書にあたる覚書のなかの文書の一節に

「一、城内唐津大明神九月二十九日祭礼の節西ノ浜へ神輿の行列御座候故寺社役の内より一人同心・・・相勤目付並組足頭出候、惣町より傘鉾等差出於西ノ浜角力有之候二付き代官手代頭組の者立会差出候」

とあります。このなかで神輿の列が西ノ浜へ神幸しているのがわかります。またこの神輿に現在の曳山以前の形態である「傘鉾等」が付き従っているのが確認できます。

この文書より56年後に刀町で1番曳山「赤獅子」が制作され、その後、明治9年に至るまで合計15台の曳山が制作され、14台が現存し、唐津くんちを彩るものとなっています。

消失した曳山は紺屋町が制作した「黒獅子」で、明治22年（1889年）が最後の巡行となりました。

～2/2へつづく～

分野 文化

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



赤獅子

唐津市文化財報告書第150集
国指定重要文化財
「唐津くんちの曳山行事」
唐津曳山 記録保存 報告書
唐津市教育委員会より

◎引用・参考文献（出典）

- ◆唐津市文化財報告書第150集 国指定重要文化財『唐津くんちの曳山行事』唐津曳山 記録保存 報告書（唐津市教育委員会）
- ◆飯田一郎『神と佛の民俗学 佐賀県の民俗信仰』酒井書店 1966年
- ◆唐津市史編纂委員会『唐津市史〔復刻版〕』1991年
- ◆唐津市史編纂委員会『唐津市史 現代編』1990年
- ◆古舘正右衛門著（富岡行昌監修）『曳山のはなし』（私家版）1985年
- ◆坂本智生著（中里紀元編）『坂本智生遺稿集唐津曳山の歴史』からつ歴史民俗研究所1993年

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html

唐津の祭り①唐津くんち (2/2)

～曳山の構造～

～1/2からつづく～

■曳山の構造

唐津曳山は大きく本体と台車から構成されます。本体部分は台車から突き出た芯棒部分に乗っている形をとっています。

台車は箱状で隅に4つの車輪が付いており、車輪は木製で直径が1m程度、厚さが15cm程度の円形で接地する面には鉄輪で絞めまわしています。この車輪は方向転換できないため、方向転換の際には台車後方に突き出している梶棒を抱えるようにして行っています。

曳山は大きく紙と漆からできています。構造形状をみると、竹などである程度の骨組みを作り、紙を幾重にも貼り合わせて、厚みを作り、その表面に漆を塗布しています。内側には木枠を取り付け支えています。こうした曳山本体の制作方法は、かつては、「張り抜き」や「張子細工」と呼んでいたもので、現在は「一閑張り」と表現する技法です。「一閑張り」は室町時代、中国から伝わった技法で、茶道の際に使用される茶道具で多く見られています。

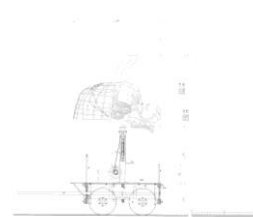


唐津神祭行列図

分野 文化

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



赤獅子 実測図

唐津市文化財報告書第150集
国指定重要文化財
「唐津くんちの曳山行事」
唐津曳山 記録保存 報告書
唐津市教育委員会より

◎引用・参考文献（出典）

- ◆唐津市文化財報告書第150集 国指定重要文化財『唐津くんちの曳山行事』唐津曳山 記録保存 報告書（唐津市教育委員会）
- ◆飯田一郎『神と佛の民俗学 佐賀県の民俗信仰』酒井書店 1966年
- ◆唐津市史編纂委員会『唐津市史〔復刻版〕』1991年
- ◆唐津市史編纂委員会『唐津市史 現代編』1990年
- ◆古舘正右衛門著（富岡行昌監修）『曳山のはなし』（私家版）1985年
- ◆坂本智生著（中里紀元編）『坂本智生遺稿集唐津曳山の歴史』からつ歴史民俗研究所1993年

◎エピソード・伝承・うんちく など

■唐津くんち開催の歴史

現在は成人女性が曳山をひくことはありませんが、第二次大戦中、徴兵された男性に代わり、残された女性が曳山を曳いたという歴史があります。昭和天皇が病床に伏していた1988年、日本中に自粛ムードが満ちていました。祭りの中止を迫る団体もありましたが、天皇の病氣平癒祈念という点で一致し、例年通り、敢行されました。

御旅所神幸が行われる11月3日は、晴れの特異日とされています。2001年の御旅所神幸は降雨で中止されましたが、これは1933年以来、68年ぶりのできごと（1968年に、御旅所神幸が11月3日となってからは初めて）であったといわれています。

■三月倒れ

唐津くんちは、“三月だおれ”とよくいわれる。3か月分の稼ぎを、祝宴、接待の費用にかけ、1年間お世話になった人や親しい人を家で歓待する。当初は町人の顧客接待の習慣が、現在は広く一般家庭まで普及し大きな賑わいとなっている。

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html